

令和 2 年 度

衣浦東部広域連合決算審査意見書

一 般 会 計

衣浦東部広域連合監査委員



3 衣広監第 8 号  
令和 3 年 7 月 2 8 日

衣浦東部広域連合長 神 谷 学 様

衣浦東部広域連合監査委員 加 藤 清 美



衣浦東部広域連合監査委員 石 川 博 英



令和 2 年度衣浦東部広域連合一般会計決算審査意見について

地方自治法第 2 9 2 条の規定により準用する同法第 2 3 3 条第 2 項の規定に基づき、審査に付された令和 2 年度衣浦東部広域連合一般会計の歳入歳出決算及び関係書類並びに財産に関する調書を審査したので、その結果について次のとおり意見を提出します。



## 目 次

### 令和2年度衣浦東部広域連合一般会計決算審査意見

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間	1
第3	審査の方法	1
第4	審査の結果	1
第5	審査の概要	2
1	決算の概況	2
2	歳入	2
3	歳出	4
4	広域連合債	5
	むすび	6

#### 注記

- 1 比率(%)は、少数点以下第2位を四捨五入した。
- 2 構成比率(%)は、合計が100.0となるよう一部調整した。
- 3 文中及び各表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - (1)「△」……負数
  - (2)「0.0」……算出により零となるもの又は該当数値はあるが単位未満のもの
  - (3)「－」……算出不能なもの又は該当数値がないもの
  - (4)「皆増」……前年度に数値がなく全額増加したもの
  - (5)「皆減」……本年度に数値がなく全額減少したもの



# 令和2年度衣浦東部広域連合一般会計決算審査意見

## 第1 審査の対象

令和2年度衣浦東部広域連合一般会計歳入歳出決算

令和2年度財産に関する調書

## 第2 審査の期間

令和3年7月1日から令和3年7月28日まで

## 第3 審査の方法

審査にあたっては、広域連合長から提出された一般会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書について、関係諸帳簿、証書類等と照合し、その計数及び調製様式は正確か、予算執行は適正かつ効率的に行われているかという点に留意して審査した。

なお、審査にあたっては、関係職員の説明を聴取し、併せて既に実施した例月出納検査及び定例監査の結果も参考とした。

## 第4 審査の結果

審査に付された一般会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿及び証書類と照合したところ正確であり、予算の執行は適正であると認められた。

## 第5 審査の概要

### 1 決算の概況

(単位：円、%)

区 分	2年度	元年度	対前年度比較	
			増減額	増減率
予 算 現 額	5,619,812,000	5,772,418,000	△152,606,000	△2.6
歳 入 決 算 額	5,622,407,819	5,776,879,516	△154,471,697	△2.7
歳 出 決 算 額	5,364,811,794	5,628,505,512	△263,693,718	△4.7
歳入歳出差引額	257,596,025	148,374,004	109,222,021	73.6
翌年度へ繰り越すべき財源	2,000,000	0	2,000,000	皆増
実 質 収 支	255,596,025	148,374,004	107,222,021	72.3

決算額は、歳入が5,622,407,819円、歳出が5,364,811,794円となり、歳入歳出差引額257,596,025円を翌年度へ繰り越している。

### 2 歳入

(単位：円、%)

区 分	2年度	元年度	対前年度比較	
			増減額	増減率
予 算 現 額	5,619,812,000	5,772,418,000	△152,606,000	△2.6
調 定 額	5,622,407,819	5,776,884,916	△154,477,097	△2.7
収 入 済 額	5,622,407,819	5,776,879,516	△154,471,697	△2.7
不 納 欠 損 額	0	0	0	—
収 入 未 済 額	0	5,400	△5,400	皆減
収 入 率	対予算現額	100.0	100.1	
	対調定額	100.0	100.0	

収入済額は、5,622,407,819円であり、前年度と比較して154,471,697円(2.7%)減少している。予算現額に対し100.0%の収入率である。

収入の主なものは、関係市からの消防分担金5,355,455,996円(共通経費4,991,473,474円、単独経費363,982,522円)である。



歳入決算額を款別に前年度と比較すると、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区分 款別	2年度		元年度		対前年度比較	
	決算額	構成比	決算額	構成比	増減額	増減率
1 分担金及び負担金	5,355,455,996	95.3	5,511,041,645	95.4	△155,585,649	△2.8
2 使用料及び手数料	21,077,750	0.4	21,741,600	0.4	△663,850	△3.1
3 国庫支出金	72,529,000	1.3	12,210,064	0.2	60,318,936	494.0
4 県支出金	47,000	0.0	61,000	0.0	△14,000	△23.0
5 財産収入	7,609,538	0.1	8,500,538	0.2	△891,000	△10.5
6 寄附金	0	0.0	0	0.0	0	—
7 繰越金	148,374,004	2.6	204,564,355	3.5	△56,190,351	△27.5
8 諸収入	17,314,531	0.3	18,760,314	0.3	△1,445,783	△7.7
歳入合計	5,622,407,819	100.0	5,776,879,516	100.0	△154,471,697	△2.7

各款の歳入決算額で、前年度と比較して増加額の大きい項目は、国庫支出金 60,318,936 円である。減少額の大きい項目は、分担金及び負担金 155,585,649 円である。

### 3 歳出

(単位：円、%)

区 分	2年度	元年度	対前年度比較	
			増減額	増減率
予 算 現 額	5,619,812,000	5,772,418,000	△152,606,000	△2.6
支 出 済 額	5,364,811,794	5,628,505,512	△263,693,718	△4.7
翌年度繰越額	2,000,000	0	2,000,000	皆増
不 用 額	253,000,206	143,912,488	109,087,718	75.8
執 行 率	95.5	97.5		

支出済額は、5,364,811,794円であり、前年度と比較して263,693,718円(4.7%)減少している。予算現額に対し95.5%の執行率である。

支出の主なものは、消防費の職員人件費事業3,888,505,095円、救助工作車の更新など車両等購入事業328,700,930円、元金償還事業204,448,000円、総務費の職員人件費事業110,210,267円及び各市消防団運営受託事業108,743,544円である。

翌年度繰越額は、安城南分署整備事業2,000,000円である。

不用額は253,000,206円であり、前年度と比較して109,087,718円(75.8%)増加している。その主なものは、消防費の職員人件費事業66,367,905円、各市消防団運営受託事業64,036,456円及び各市消火栓設置等工事負担事業20,529,300円である。

歳出決算額を款別に前年度と比較すると、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区分 款別	2年度		元年度		対前年度比較	
	決算額	構成比	決算額	構成比	増減額	増減率
1 議 会 費	2,096,697	0.0	2,049,059	0.0	47,638	2.3
2 総 務 費	197,702,808	3.7	222,925,582	4.0	△25,222,774	△11.3
3 消 防 費	4,960,197,369	92.5	5,198,487,939	92.4	△238,290,570	△4.6
4 公 債 費	204,814,920	3.8	205,042,932	3.6	△228,012	△0.1
5 予 備 費	0	0.0	0	0.0	0	—
歳 出 合 計	5,364,811,794	100.0	5,628,505,512	100.0	△263,693,718	△4.7

各款の歳出決算額で、前年度と比較して増加している項目は議会費47,638円である。減少額の大きい項目は、消防費238,290,570円である。

#### 4 広域連合債

(単位：円)

区 分	元年度末残高	2年度起債額	2年度償還元金	2年度末残高
広域連合分	199,800,000	0	199,800,000	0
碧南市分	0	0	0	0
刈谷市分	9,460,000	0	3,140,000	6,320,000
安城市分	4,532,000	0	1,508,000	3,024,000
知立市分	0	0	0	0
高浜市分	0	0	0	0
合 計	213,792,000	0	204,448,000	9,344,000

広域連合債は、約定どおりの償還を行った結果、未償還残高は9,344,000円となり、前年度と比較して204,448,000円(95.6%)減少した。

## む す び

以上が令和2年度衣浦東部広域連合一般会計歳入歳出決算審査の概要であり、以下のとおり審査意見を述べる。

一般会計の決算額は、歳入5,622,407,819円、歳出5,364,811,794円であり、前年度と比較して、歳入は154,471,697円(2.7%)、歳出は263,693,718円(4.7%)それぞれ減少となった。この結果、歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は255,596,025円となった。

当年度も、火災、救急、救助、自然災害の対応など広範囲にわたり、緊急度・優先度の高い施策に重点を置き、多くの事業が実施された。

消防力の充実のため、車両整備計画に基づく車両の更新を行うとともに、施設整備計画に基づく老朽施設の更新・機能性の向上が図られた。また、救命率の向上のため、救急救命士の育成強化や資機材の更新のほか、新型コロナウイルス感染症患者を搬送するための環境整備も行われた。さらに、防災意識向上のための普及啓発活動や通信指令システム安定稼働のための関連機器の更新も適切に行われている。

これらはいずれも圏域住民の安心、安全の確保、消防力強化につながるものと認められる。

発生が懸念される巨大地震や各地で頻発する異常気象による自然災害に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、圏域住民の消防組織への要求は高まっている。これに応えていくためには、より高い水準の体制づくりを行っていく必要がある。

広域を管轄する消防ならではの組織力を活かした活動を引き続き行うとともに、関係市、防火関係団体、各地域の消防団などとの緊密な連携により、地域防災力の強化と広域的な応援協力体制を築き、より一層、消防力が強化されることを期待し、本審査のむすびとする。

